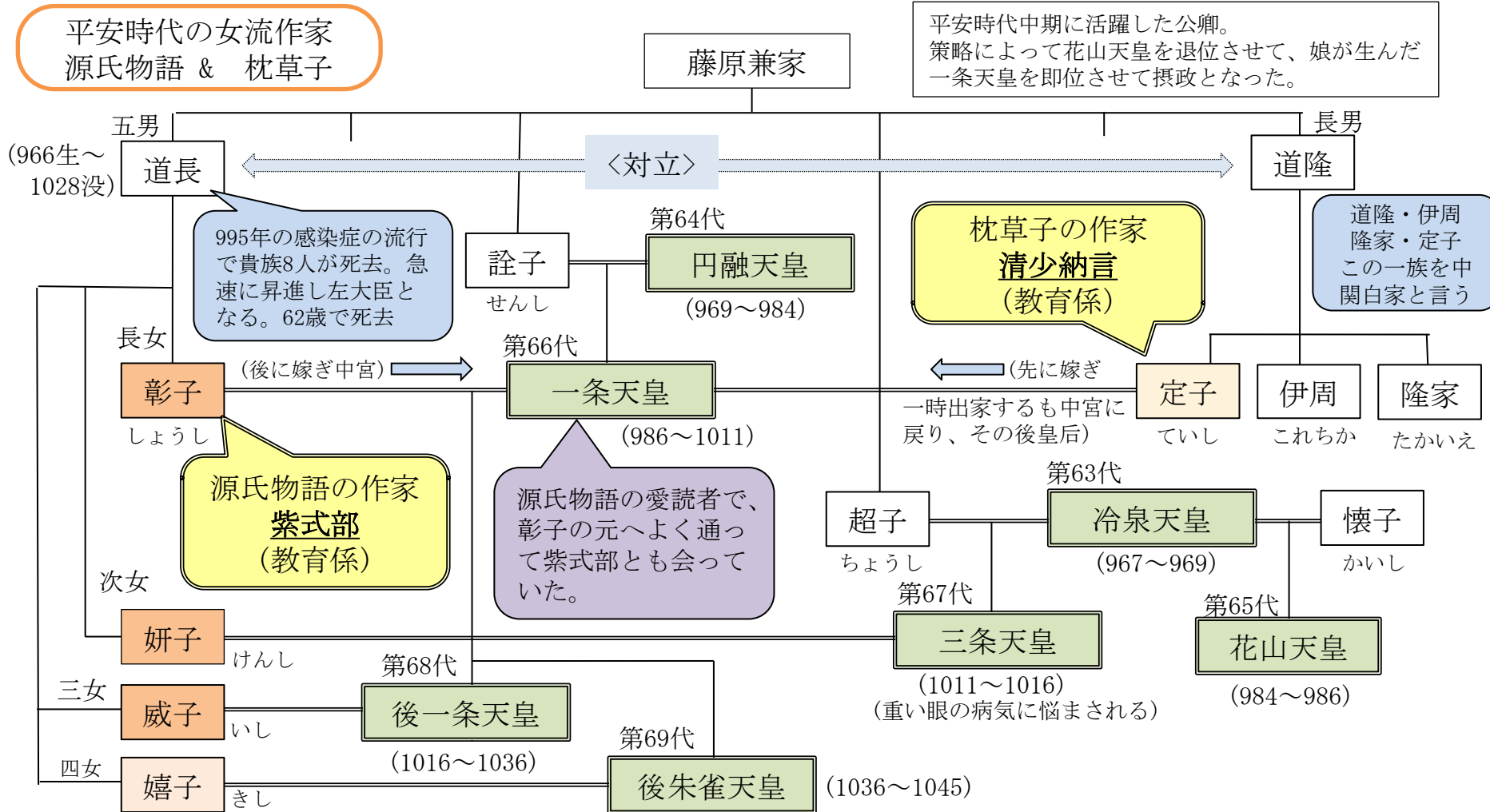


平安時代の女流作家
源氏物語 & 枕草子



平安時代中期に活躍した公卿。
策略によって花山天皇を退位させて、娘が生んだ一条天皇を即位させて摂政となった。

995年の感染症の流行で貴族8人が死去。急速に昇進し左大臣となる。62歳で死去

源氏物語の作家 紫式部 (教育係)

源氏物語の愛読者で、彰子の元へよく通って紫式部とも会っていた。

枕草子の作家 清少納言 (教育係)

道隆・伊周・隆家・定子 この一族を中関白家と言う

紫式部 (生没年不詳) 源氏物語の作家
世界最古の長編小説(全54巻) 長編小説/平安中期作

皇子の子ながら臣籍に下った(※)美男子「光源氏」とその子供、孫の時代、約70年間を描く。光源氏は成長後、様々な女性と恋愛を重ねる。亡き母と似た父の後妻、憧れの人に似た少女、年上の未亡人など。その後、左遷を経て京に戻り、太政大臣に上り詰めるが、最愛の女性に裏切られ、最後は出家する。
(※)臣籍降下(しんせきこうか)とは、皇族がその身分を離れ、姓を与えられ臣下(しんか、配下・部下・家来などの意味)の籍に降りることをいう。

清少納言 (966年頃～1025年頃)
枕草子の作家 随筆/平安中期作

宮中生活での体験や出会った人々についての感想を、平仮名を中心として和文で綴った随筆集(305段)。鋭い感性と観察眼で自然や人物を切り取ったり、定子との中宮生活を回想するなど、多彩な内容がある。知的で軽妙、明るい作品が多い。